



平成26年度
留学生ホームステイ
思い出の文集

公益財団法人新潟市国際交流協会

日 程 表

☆7月26日（土曜日）

場所：クロスパルにいがた

午後1時30分 対面式、諸連絡、記念撮影

午後2時 各ご家庭へ

☆7月27日（日曜日）

午後3時 各ご家庭にて解散

★24家庭31人の留学生（2カ国1地域）で行いました。

当事業「留学生のためのホームステイ」は、新潟市在住、在学の大学・専門学校
の留学生を対象に 1泊2日で、日本の家庭生活を体験してもらい、また受け入れ家庭では、国際交流のきっかけ作りが出来ればという主旨で行っております。

中国：韓 萍 (カン ハイ)

今回、運よくホームステイに参加することができ、この1泊2日は、いままでで最も貴重な経験となりました。会う前の緊張感はもちろん、会ってからの恥ずかしさや感動も決して忘れません。私のホームステイはこうして始まりました。

対面式で一番最初に呼ばれ、すごく緊張しました。同時に若い女の子も立ったので、ホストファミリーの娘さんだと分かりました。おばあちゃん、お父さん、お母さんと妹の5人家族です。最初、私が日本語ができないと思って、英語で自己紹介をしてくれました。とても優しく、誠実な一家だと思いました。日本語で少し会話ができると分かり、出身地や趣味など話しました。集合写真を撮ってから、車で家に帰りました。

住まいは2階建ての一軒家で、挨拶をして、私が泊まる畳の和室に案内されました。日本人はマナーをととても大切にすると聞いていたので、正座をしましたが、『気楽に足を崩していいよ』と言ってくれました。事前に用意した中国語の資料を取り出し、“おはよう”などの挨拶を真剣に聞きました。中国語の声調の難しさや、興味のある中国の文化なども話しました。お土産のくまどり模様の扇子も喜んでくれました。

マンガ好きな私に、妹たちがワンピースのトランプを使って、日本のトランプの遊び方を教えてくれました。中国の遊び方と全然違って、中国の遊び方を教えたら、みんな興味を持ち、しばらくトランプで遊びました。

その後、下の子の小学校に行き、太鼓の練習を見ました。とても迫力があって、素晴らしかったです。もちろん私も貴重な体験をさせていただきました。

お母さんはおいしい日本料理をたくさん作ってくれて、肉好きな私のために、焼肉を3種類も用意してくれました。

『ごちそうさまでした！とても美味しかったです。』

子どもたちの動画も見せてくれました。子ど

もをととても大事にし、常に成長を記録に残しています。とても羨ましかったです。なぜなら、私は小さい時の写真があまりないからです。

翌日、朝食後、家族でお祭りに出かけ、お友達のジャズの演奏を鑑賞しました。歌はとても上手で、特に電子ピアノを演奏する人はプロと間違ふほどうまかったです。

“もう一回聞きたいです。”

別れの際、二日間の感想を聞かれ、『とても感激したし、楽しかったです。本当に貴重な二日間でした。どんな素晴らしいことでも終わりが来る。別れは悲しいが、二日間は本当に幸せでした。』と話しました。

家の前まで送ってくれ、お互い別れを惜しんで、ハグして別れました。これこそ人生だと思いました。出会いがあれば、別れもある、そして、再会を願う。連絡先を交換し、機会があればぜひ会いましょうと約束しました。今度は私が中国料理をごちそうします。お土産もたくさんもらいました。

この二日間、日本の文化や生活習慣に直接触れ、日本の家庭事情を知り、ホームステイの本当の目的が達成できました。そして、日本語がうまくなっただけでなく、この暖かく、優しい一家にも出会いました。二日間は本当にあっという間で、短かったです。とても楽しく、充実した時間でした。

帰宅後、お父さんからメールが来ていて、『別れた後、子どもたちがずっと泣いていて、時間があれば、ぜひ遊びに来てください。二日間だけでしたが、とても楽しく、充実した時間でした。今はとても寂しいですが、あなたの成長を祈ります。』という内容でした。

「人生とは…」いままでずっと自分に問いかけてきた言葉です。その中にある友情は近くにいる人々によってもたらされるものと思っていましたが、異国の友情もこんなに素晴らしいとは知りませんでした。



中国：劉 成竜 (リュウ セイリュウ)

僕は、最初は期待しながらちょっとした不安な気持ちでホームステイに参加しました。そして、終えた後、今思い出すと非常に楽しかったです。私はこのホームステイが始まってすぐに、ホームステイの意味が感じました。それは、日本の方々と一緒に話し合い、日本の普通の家族の生活を体験することです。僕を受け入れた小出様は、非常に親切に接していただきました。

ドライブで僕を弥彦神社、長岡市、燕市につれて、日本海の絶景を見せていただきました。日本の文化や歴史、新潟の米や枝豆のことをいろいろ教えていただきました。普段あまり見られない畑はすごくきれいに並んで、すごいなと感じました。また、おいしい家庭料理を作ってくださいました。天ぷらやそば、煮物などいろいろな美味を食べて幸せです。

中国のことや日本のことを話し合いながら互いに理解を深めることを実感しました。機会がありましたら、また参加したいと思います。本当にホームステイに参加してよかったです。

**台湾：張 虹儀 (チョウ コウギ)**

ホームステイは2回目でした。1回目は、高校生のとき、埼玉県で体験したが、その時、日本語が全然わからないので、英語と漢字で話しました。今回は全然違いました。日本語が話せるようになったので、ちゃんと日本の文化と家庭の生活を体験できました。

受入れ家庭の相馬さんの家は、初めて受入れ家庭になるそうで、私のことを大事されました。対面式の前、電話で私と連絡しました。私は何か好き嫌いか、何かしたいかと聞きました。とてもあついい人たちです。

対面式の後で、まず相馬さんの家へ行きました。家までお母さんと私はたくさん話して、この前の台湾の災害事件も関心がありました。お母さんはとても優しい人です。相馬さんの家に

は小学生の娘さんが二人います。

ちょっと恥ずかしがりやな子どもなので、あまり私に話かけませんでした。でも、晩ご飯を作っている間、子どもたちとゲームで遊んでいました。楽しかったです。

晩ご飯はお父さんの手作りピザでした。ピザは熱くてうまかったです。ピザの上には、お母さんが植えたトマトと野菜でした。

晩ご飯を食べながら、みんな楽しく話しました。私は台湾のことや台湾人の生活も話しました。面白かったですね。

ちょうど上の子の誕生日でした。ご飯を食べながら、みんなと一緒に祝いました。そのあと、お母さんは私を銭湯へつれていきました。初めて銭湯に入りますね。裸でシャワーをしたり、お風呂に入ったりして、ちょっと恥ずかしいですが、とても特別な経験でしたね。この経験をきっかけに私も銭湯が好きになりました。お風呂のあと、冷たい牛乳を飲んですっきりしました。気持ちがいいですね。

その晩は和室で寝ました。畳のにおいが好きなので、うれしかったです。それに、テレビもついているから、やっと日本の番組を見られますね。

翌日、私はイオンへ行ったことがないって言ったので、お母さんは私を連れて行ってくれました。留学期間で車がなくて、どこへも行かなかった、不便だと思います。今回ホームステイのおかげで、行きたい場所へ行きました。楽しかったです。

夏セールなので、ショッピングして、好きな靴を買いました。おいしいたい焼きも食べました。そのあと、娘さんがコンサートのための練習があるので、練習場に行きました。いっぱい子どもたちがいて、歌を練習して、かわいくて、それに私と親たちもダンスをして面白かったですね。

別れの時、台湾のはがきで感謝のことを書いて、台湾のランタンのストラップと一緒にあげました。本当に相馬さんのみんなに感謝していますね。

今回のホームステイは本当に楽しかったです。日本人と暮らして、交流をして、とても素晴らしい思い出ができましたね。また参加したいです！



「ホームステイ雑談」

中国：丁 世理（テイ セリ）

日本に来てこのかた、正直、日本人と触れ合うチャンスは思ったほど多くないというふうに感じてきた。それは、自分がそれほど社交的ではないという点によるかもしれないが、一方、一緒に授業を受ける日本の大学生はあまり留学生に話しかけてくれないということは、こちらの情熱を大いに削いでしまったことも手伝っていたのではないかと思う。このようなもどかしい気分がたまっている中、ホームステイの抽選に運よく当たったことは、当然自分のやる気を頂点にまで引き上げることができた。一般の日本人の家庭に入り、家族の一員として、一泊二日を過ごすのは、何が待ち受けているか、大きな楽しみとちょっとした興奮を抱きながら、真夏日の炎天をものともせず、意気揚々に対面式の会場に向かった。

僕のホストファミリーは神部さんという。お父さんは所用で来られなかったが、お母さんのはきはきして躍動感あふれる振舞は、最初から自分の緊張感を和らげさせ、言葉を交わしていくうちに、非常に手ごたえも感じさせた。というのは、神部ファミリーは、これまで短期・長期のホームステイを数多く引き受け、昨年、中国からの一人の高校生の世話を一年間焼いたそうで、中国にかなり興味・関心を示す家庭である。それに、お母さんはそれまで積極的にホームステイ事業に携わっていたためか、各国の学生さんと交流を持ち、常日頃にその国を知ろうとアンテナを広げて、学生本人にもよくなじんでいたように見受けられた。

徐々に意気投合の話し相手に出会ったので、僕は知らず知らず、弾みがつき、あっという間

にお母さんと共有の話題を探し当て、突っ込んだ意見交換を繰り返していった。近ごろ取沙汰されている期限切れの中国産チキン問題から中国の食品事情まで、それを契機に、中国の食品安全監督体制・環境問題・都市開発・土地制度と、次から次へと後を絶たずに話のタネが移っていった。友達の中国人留学生とテーブルを囲み、食事を一緒にする折には、よくその種の話や議論の中心にのせるが、中国人同士の間では、意見の対立こそ時々見られるものの、類似ないし同一の物差しで物事を考察するため、大抵の場合、たやすく共通の認識にたどりつくものである。中国に関心を寄せつつも、中国から距離を置き、中国人よりはるかに冷めた目で中国のことをとらえている日本人は、どのような意見を持つかは、僕にとっては、普段知ろうとも知る由もない、興味深いことである。共に受講する日本人の学生は、集団的自衛権といった国内の出来事についてさえ、話し合うことを一度たりとも耳にしたことはない。まして中国のことに本腰を入れて研究しようとする日本の学生はなおさら少ないのではないかと思う。まさか、お母さんと気のすっきりするまで話し合えるとは全く望外の喜びとでもいふべき不思議なことでしょう。

歴史・政治という堅苦しいことに熱弁を戦わしたほか、文学の自己救済の価値についても、お互いに実感を伴い、縷々と語り合っていた。年来文学作品は名作であればあるほど、読者は作中に感情移入し自己投影できる箇所が多いとつくづく思う。自己の抱える悩みは自分ひとりだけに与えた試練と思われがちだが、実際長い歴史の年月に、同様な悩みを背負っていた先人は必ず文学作品の中にある。それに会うたびに、あたかも知己を見つけたかのごとく、内心の頼りなさが打ち消され、かわってしたたかな心が生まれてくる。これこそ、名作をして名作たらしめる所以ではないか。古典文学好きのお母さんは、はるばるタイへ留学に行っていたわが息子を思う都度、涙ボロボロになりそうだが、そのやりきれない息子思いの心情を幾分穏やか

にしてくれたのは、なんと昔、自分の息子が防人に行くのを見送る母親を描く短歌だそうです。それを聞いて、母の偉大さを感じさせられたと同時に、文学の時間・空間を超越する素晴らしい力をも感じずにはいられなかった。

暑い日だったためか、交流の情熱は夜のとぼりが下りても一向に醒めることがなかった。とりとめのない語り合いはついに夜 10 時半まで続いた。

二日目は、場所を変えて、近所のパーティー式場に移った。

そこに行ったら、今度は舌を巻かされるばかりだった。古人曰く：老いてはますます壮なるべし。まさしく式場に訪れた中壮年の方々は、若者として顔向けできないほど、英語の勉強に驚異的な意欲・姿勢を披露してくれた。主催者は日本在住のアメリカ人で、会場に訪れたのは日本人以外に各国からの留学生ということだけあって、英語でコミュニケーションをするのはその場において一番無難かもしれないが、相手が英語を話せるか否かは気にせず、とにかく英語を話そうとする姿勢に、感心する一方、思わず取りつく島をなくされたような気がした。僕は、大学まで受験のためばかりに英語を勉強してきたので、元来流暢に話せなかったのに加えて、大学 3 年以來、完全に英語を触っておらず、ただでさえたどたどしい僅かな英語力はとっくにきれいさっぱり忘れた始末である。いきなり英語を話しかけられても、失礼ながら日本語の返答しかできなかった。のんびりして老後生活を楽しむべき日本の中壮年の方々はこんなにエネルギーギッシュとは、驚く限りだった。逆に、式場に日本の若者の姿が見当たらないことは、また不思議でならないものだった。

今回のホームステイ経験を経て、僕は同世代の日本の若者よりも、どうやら僕の両親世代の中年以上の方々と響き合うところが一層多いのではないかと、はっきり思い知らされたような感じがする。それも、お母さんとの対談で触れたことだが、どうも僕の子ども時代の思い出あるいは子ども時代に両親から受けた家庭教育は

容易にお母さんの共鳴を惹き起こさせるし、お母さんの物事のとらえ方は、僕にほとんどジェネレーションギャップを感じさせないどころか、親近感さえ持たせてくれた。反面、国境を越えた日中両国の若者に共有されるいわゆる若者文化のカテゴリーに入る物事については、微塵も知らないし、知ろうともしないでいる。国内にいた時に、ややもすれば、そのためクラスメートにばかにされていた僕自身も若者でありながら、頭のとっぺんから足のつま先まで若者らしくないととっくにあきらめをつけていた。それを聞いたお母さんは「若者らしくてもなんでもない。それは老成ということです」。「老成ですか、そうね、老成だと僕は信じたい」と笑いながら答えた。



「ホームステイの感想・日本の家族」

中国：許 鶴 (キョ カク)

7月26日～27日の1泊2日で本当の日本家庭で過ごしました。日本の和文化について、更に深い理解と感銘を覚えました。

まず、26日午後、クロスパルにいがたでホストファミリーと対面。私を迎えに来てくれたのは、お母さんと二人の子どもでした。小学生と幼稚園児の男の子でした。お母さんは若くて、優しい人と思いました。私の日本語があまり上手くないので、お母さんは持参した辞書であいさつをしてくれました。前日、下の子が熱を出したため、あまり準備が出来なかったそうです。

お母さんの名前は小川さん、小川さんのの実家は比較的、田舎の方にあり、緑がいっぱいで、とても美しいところでした。その日は、近くの植物園と小さい滝を見に行きました。珍しい虫や花、滝も素晴らしかったです。その後、スーパーで夕食の食材を買って、私はつたないながら「卵とトマトの炒め物」を作りました。お母さんは料理がとても上手で、おばあさんも家から甘くて美味しいトウモロコシとプチト

マト、マンゴーを持ってきてくれました。本当に感激し、また、日本の家庭の清潔さ、現代化、環境の良さも驚きました。

次の日の朝もお母さんはおいしい日本風の朝食を作ってくれました。

二日目は、鉄道博物館、ヨーグルト牧場（安田ヨーグルト）、足湯、小農場、自然科学館に行きました。下の子の風邪も治り、とても元気になったので、一緒に笑ったり、遊んだり、話したり、とても楽しく充実した一日を過ごしました。

ワンパク盛りの二人の子どもの世話や、家事も見事にこなしているお母さんはすごいと思い、尊敬もします。

生活を共にしたこのホームステイは、日本の日常的な家庭生活を理解し、日本の家庭の雰囲気を感じ、日本の家族もできて、とても有意義で充実した楽しい二日間でした。

日本人と深く接する機会を作ってくれたことを感謝し、日本やこの国の優しい国民がもっと好きになりました。

小川さん一家の心温まるおもてなしに感謝します。忙しいところお邪魔したりしてすみませんでした。今度はぜひ中国に遊びに来てください。私は全力でお世話をしたいと思います。

楽しい時間はあっという間でしたが、しかし、美しい思い出は永遠です。小川さん一家はいつまでも私の日本の家族です。



台湾：蔡 怡雯（サイ イブン）

7月26～27日は日本に来て、初めてのホームステイでした。日本の家庭生活を体験できるから、ずっとホームステイをしたかったです。今回、多くの留学生が日本の家庭を体験できる機会を与えてくれたことに感謝します。

私が、お邪魔したのは鈴木さんのお宅です。おばあちゃん、お父さん、お母さん、子ども3人の6人家族です。残念ながら、お父さんは出張で会えませんでした。

鈴木さん家族と過ごしたこの1泊2日で、たくさん思い出ができました。対面式でお母さんと小学生の男の子に会って、一緒に長女を迎えに行き、その後、万代島美術館で「近藤喜文展」を見ました。道中、お母さんといろいろな話をしました。お母さんも新潟大学の卒業生で何か縁を感じました。

話の中で、日本と台湾の違いについて話しました。たとえば、テストの答案用紙。台湾では間違ったところに○（丸）を付けますが、日本は反対で、正解に○（丸）を付けるなど、驚きと共に面白いと思いました。もちろんお母さんたちも同じでした。

夕食は、しゃぶしゃぶと冷麺をごちそうになりました。どちらも日本に来て、初めて食べた料理です。台湾で食べた和風しゃぶしゃぶとは違い、味はシンプルだけど、おいしかったです。お母さんに感謝です。夕食後、子どもたちとゲームをしました。わからない日本語もありましたが、丁寧に教えてくれて、とてもうれしかったです。それから、地球儀で台湾の場所を教えたり、文化や習慣を話して、楽しい交流ができました。

鈴木家はよく外国の方を招待するそうで、お母さんはいろいろな国の人の特徴をよく知っていました。ある国の人には、朝、シャワーを浴びる、またある国の人には、二日に一回お風呂に入るなど、聞いていて面白かったです。

翌日は朝食後、散歩がてら、近くの小学校に行き、子どもたちといろいろな話をしました。子どもの話し言葉は本当に可愛いと思いました。お昼近くに水族館に行き、海洋生物やイルカショーを見ました。その後、お別れの時間となり、車でアパートまで送ってくれました。とても悲しかったですが、子どもたちとハイタッチ、お母さんとハグをして別れました。

こうして二日間のホームステイが終わりました。鈴木さん家族に本当にお世話になりました。そして、日本での留学生活に新しく素晴らしい1ページが加わりました。永遠に忘れない貴重な思い出です。本当にありがとうございました。

(*~*~*)

中国：劉 雨柔（リュウ ウジュウ）

一人の中国交換留学生として、ホームステイに参加しました。この活動を通して、日本の家庭生活を体験し、日本の友人ともたくさん交流ができました。とても楽しかったです。このような機会を与えてくれて感謝します。



海外旅行した気になった2日間

小黒 円

今回のホストファミリーは私たち家族にとって2度目の経験でした。ですが中国の方は初めてだったので、家族全員でその日を待ちわび当日を迎えました。

私自身もワーキングホリデーをし、何度もホームステイの経験があったのでその時の経験を活かして楽しく過ごそうと思いました。

私が経験したホームステイは特別なことはせずどの家庭も家族として受け入れてくれ普段の日常生活を体験させてもらい、私自身もホストファミリーの日常が体験できとても良い経験になったので、今回のホストファミリーも日常の生活を体験してもらおうと特別なことは考えず普段どおりに過ごしました。

「初めてのホストファミリーになって」

丸山 乃野

私は部活の大会があり、対面式に参加できませんでした。

残念だった結果で、沈んだ心で帰宅した私をベトナム人のジェムさんとアインさんは、温かく待っていてくれて気持ちが一変しました。

二人とも3年間ベトナムで日本語を勉強していたとのこと、とても日本語が上手でした。

夕飯はたこ焼きと手巻き寿司。たこ焼きは手作りで、協力して作りました。作るの初めてだと言っていたので、おもしろい経験をさせてあげることができて良かったです。

その後はテレビを見たり、ベトナムの話をして寝るのはとても遅くなりました。

翌日は、私と妹が習っている空手を披露しました。とても興味深く見てくれて、『私も習いたい』と言ってくれて嬉しかったです。

ふれあい動物センターに行ったり、すぐ近くだった2人の家にお邪魔させてもらったりもしました。午後3時になってお別れをするときは悲しかったです。

2日間という短い時間ではありましたが、私にとってとても有意義な時間でした。受け入れ前はうまくコミュニケーションが取れるか？楽しんでもらえるか？など不安ばかりでしたが実際に会ってみると緊張もせず、話をすることができました。

2人は日本をたくさん誉めてくれました。私は日本人でありながら日本についてまだわからないことがたくさんです。

今回来てくれた2人に関わらず、これから出会うであろう外国人に日本の良さ、文化などを自分で伝えられるように勉強しようと思った2日間になりました。

私は外国に興味があるので、これからの国際交流活動に積極的に活動していきたいと思いました。ありがとうございました。



吉井家族一同

娘の 1 本の電話から始まったホームステイ！！

受け入れるか、受け入れないか、家族で相談し、OK が出ました。

7月26日(土)「シーチャオ～」対面式です。「フンです。」⇔「吉井です。」

五泉に戻る前に車中でいろいろインタビューしました。『新潟にどれくらい暮らしているの?』、『日本のたずねて行った場所?どんなことをしたい?好きな食べ物は?』、意見を参考に、ホームステイ開始です。すぐに仲良くなってホッとしました。

北方文化博物館へ行き、見学者が少なく、私たちの独壇場で、満足満足。日本の「ハスの花」を見ることができ、フンさんの国、ベトナムの国花だと知りました。

横越のプラントで夕食の材料を購入、フンさんがベトナム料理を作ってくださるとのこと、楽しみです。でも、23歳の男性です。本当に作れるのかな?とっていました。

しかし、これが、最高に美味しいナムでした。「嫌いなものはありません。」と言っていました。生のトマト(自作)が食べられないとのこと(涙)、好きな食べ物は「刺身」と聞いて安心。マグロ丼とトン汁を用意しました。トン汁は初めてでした。

我が家の「犬」と「孫」も、ホームステイをとってもリラックスしてくれました。

プレゼントした「じんべい」で私どもの長男、次男と3人でじんべい姿になり上機嫌!!ギター、ハーモニカ演奏で会が盛り上がり、いろいろな国の話が飛び交いました。

その夜は、最悪で、今年最高の暑さで37℃。ベトナムは40℃の生活で慣れているらしい。汗もかかず、水シャワーで今日は完了!!

7月27日 9時出発。

阿賀の里の舟下りに行きました。タイミングよくSLが蒸気を上げて走って行き、素晴らしい

光景でした。その後、福島の高城へと移動。日本を理解してもらおうと思い案内しましたが、漢字が分からないため、理解に戸惑っていました。

夕方、我が家に戻り、フンさんの暮らしているアパートへ車を走らせました。二人暮らしでした。『また、チャンスがあったら、二人を迎えに来よう。』と主人と話し、自宅に戻りました。アルバイトで学費を稼ぎ、ベトナムの両親を大事にするフンさん。将来の夢も大きく、出来ればいつまでも応援したいと、私たち家族は思いました。これからも身体に気をつけて、楽しい日本の生活を送って欲しいと思います。楽しい二日間をありがとうございました。



「四川からの留学生」

正村 藍子

我が家にやってきたのは四川出身の22歳の晴天さん。新潟大学で1年間、交換留学生として日本語を勉強しています。将来は出版社に務めたいと、上海の大学では中国文学を専攻しているとのことでした。

事前のやりとりで、とても感じのよい人柄が伝わってきました。私たちも新潟県に引っ越して間もないこともあり、柏崎の花火を見に行く約束をしました。実際にお会いした晴天さんは、思った通りの礼儀正しい好青年でした。対面式の後、早速柏崎へ向かいました。中国では、何かの式典や、学校の成績優秀者が多く出たときなどに花火が上がるそうで、日本の花火は初めてとのことでした。

現地で待っている間、柏崎のクイズに参加したり、ねぎっ娘のライブを観たりしました。ファンの人たちが、楽しそうに踊っている姿を見て、

「日本人はおとなしいイメージがあったのだけど…」と笑っていました。

その後も花火までの間、沢山の話をしました。特に食べ物の話が面白く、中国では緑茶に砂糖を入れるそうで、日本に来て甘くないお茶を飲んで驚いたそうです。彼は、何にでもトライし、納豆、たこ、オクラ、全て大丈夫と笑っていました。日本のアニメも好きで、私たちが知らない作品もありました。

花火は、想像よりも遥かに素晴らしく、様々な色形の大輪に驚きました。一つだけ、帰り道が混雑し戻りが遅くなってしまったことを、申し訳なく思っています。

翌日は、晴天さんが卓球好きとのことだったので、皆で卓球を教わりました。謙遜していましたが、かなり上手でした。また家で、エレクトーンの上に置かれた楽譜を見ていたので、「弾けますか？」と聞いたら、遠慮がちに「少しだけ」との返答。素敵なバッハでした。お返しに次男も、恥ずかしそうにしながら弾きました。スポーツと音楽に国境は無いのだと、改めて感じさせられました。

帰り際、晴天さんに、「日本に来て困ったことは？」と尋ねると、暫く考え込んだ後、「銀行が土日曜日に開いていないこと」と答えました。想像ですが、隣国とはいえ言葉も文化も違う国に来て、困難が沢山あったのではと思います。しかしあえて、私の問いに「日本では銀行もお休みなのですね」と笑いながら返してくれたのは、彼なりの思いやりではと思いました。

2日間ご一緒させて頂いたのですが、晴天さんの相手を思いやる人柄が良く見てとれました。私も彼のように、相手のことを考えられる人間になりたいと感じたホームステイ体験でした。



「思い出たくさん」

相馬 みなみ

最初は少しきんちょうしてあまりしゃべられなかったけど、だんだん仲よしになって、台わん語をおしえてもらったりしました。メールのこうかんもできたので、また会いたいなと思いました。

きゅうちゃんと過ごしたなかで一番楽しかったのは南のイオンに行ったことです。南のイオンで写真をプリントしたり、おかいものをしたのが楽しかったです。きゅうちゃんととった写真を大切にしたいと思います。最後には心がこもったポストカードと、台わんのおまつりのときにつかうもののストラップをもらいました。とってもうれしかったです。いいあいができてよかったです。あっというまの2日間だったけどとっても楽しかったです。もっともっときゅうちゃんといろいろなことをしたいなと思いました。夏休み中の旅行にさそいたいくらいです。家がちかいので会えるといいです。



「ホームステイ」

相馬 さくら

わたしが、ホームステイで楽しかったことは4つあります。

1つ目は、ドンジャラというゲームをいっしょにしたことです。ドンジャラは、ドラえもんキャラクターで、それをきまっているじゅんぱんにならべるゲームです。2回しました。1回目は、かったけど、2回目は、あいこでした。

2つ目に楽しかったことは、おとうさんがやいたピザを食べてよろこんでくれたことです。食べたあとに、アナと雪の女王という映画をみました。

3つ目に楽しかったことは、おねえちゃんのおたんじょう日会をしたことです。いっぱいごはんがでて、さいごには、ケーキもたべました。

4つ目に楽しかったことは、イオンにいったことです。いろんなお店がありました。

「新しい出会い」

小出 弘子

堂前 みどり

7月の暑い日、新潟の専門学校で日本語を学んでいるベトナムの学生さんと出会いました。まだ、20歳にならない彼女は、穏やかな笑みをたたえ、静かに話す魅力的な女性です。

初日の午後は、マリニピア水族館に行きました。彼女は新潟に来て10カ月経つのに、ほとんどの観光施設に行ったことがないというのです。まずは、魚のトンネルで写真を撮りまくり、その後イルカショーでは、歓声をあげて喜んでくれました。ラッコを見るのも初めて、タッチ水槽では、びくびくしながらナマコやヒトデに触ってみました。こんなに感動してもらい、私も嬉しくなりました。

夜は近所の方といっしょに歓迎会です。ベトナムのことや日常生活のことを話題にしました。学校以外では日本語を使う機会が少ないのか、会話になれていないようでした。日本人家庭にホームステイしていれば、おしゃべりの機会ももっとあるのにと、少しお気の毒でした。自炊をしているということで、料理の話で盛り上がり、今度はベトナム料理をいっしょに作ろうということになりました。再会の約束ができました。

翌日は、ジブリの映画を娘と里帰り中のアメリカ人元留学生の女子3人で観に行きましたが、日本語よりも、ストーリー展開が複雑で良くわからなかったようで残念でした。

水族館と映画に行っただけでしたが、それでも、元留学生とはまるで姉妹のように寄り添っていました。我が家では、特別ではない日常を味わってもらえたでしょうか。

今回の企画に参加して、本当に良かったと思います。新潟で学ぶ留学生にもっと新潟を好きになってもらい、相互の理解が進むように一泊二日のホームステイの機会が年に複数回あるといいですね。アルバイトをしながら学業に励む留学生さん達を応援したいです。今回の新しい出会いに感謝です。

今回、ホームステイの機会を得まして、ほんとうに充実した楽しい日を送らせていただきました。

私たち夫婦にとって一人息子が自立し、外国の方を迎えることをすごく楽しみにしていました。対面式で、劉成竜さんにお会いし第一印象も良く好青年でした。

その日は、新潟は米どころ、魚、野菜ともおいしいですし、ドライブも兼ねて、蒲原平野、弥彦、寺泊、分水とまわりました。車中、劉さんから大好きな読書が「古文」と聞き、ビックリでしたが、日本文学への深い興味、愛情のようなものも感じ、来日してから2年しかたっていないのに、会話がほんとうになめらかで驚かされました。

好物の枝豆が、広い田んぼの中で、枝に豆がついているのに驚いている劉さんも印象的でした。

とても素直に日本を知ろうと、人との付き合いも大切にしながら日本で「博士号」を習得されるために努力されていることに、ほんとうに好感が持てました。食べ物もなんでも食べられているとのことでしたが、努力はしていますが「納豆は無理！」とのこと、車中大笑いでした。

帰宅しましてから、夕食をとりながら、社会人として1年仕事をされたのですが、1回きりの人生やりたいことをと、「日本に行きたい」と少し反対がありながらもご両親と話し合われたこと、中国の状況、両方の国の子育て、政治問題など、初対面とは思えないほど本音の話ができ本当に充実していました。

私の方から、現在隣国の関係が良くない中、将来戦争の無いお互いの国であるためにできることをしたいこと、このような縁を通して、人とのつながりを大切にしたいと話をしました。

話も盛り上がり、一人息子が暮れに帰省しますので、四人で一緒に年の終わりを過ごしたいと決まり楽しみにしています。

初体験のホームステイ、機会を与えてくださりほんとうに感謝します

「つながり」のはじまり

山田 国人

神部 裕子

今回のプログラムで出会った、笑顔の素敵な中国人のセリさんが我が家に滞在したのは本当にほんのわずかな時間でした。そして受け入れ側としては申し訳ないくらい特別なことをせず終わってしまった、というのが正直なところではあります。しかしながら、ぎゅっと凝縮された、思い出に残る貴重な体験ができたのをとてもありがたく感じています。

現在我が家は夫と私の二人ですが、夫もその日は昼間おらず、とにかく「普通」の日本の家の中や人々に接してもらいたかったため、私の実家にまず連れて行き、父母に会ってもらいました。両親と共にお茶を飲みながら中国のご家族のことや今の日本の生活などのお話をあれこれ聞き、あまりに日本語が堪能なセリさんに皆で驚いていました。

その後我が家に帰り夫を交え、お酒を飲みゆっくりと夕食を食べながら様々な話に花を咲かせました。セリさんは大学で日本文学を専攻していることもあり、特に読書が好きな私にとって日本の古典から現代文学までに精通するセリさんと思いがけず文学談義ができたことは嬉しい発見であり、大いに盛り上がりました。話しながら、古い書物の中の当時の人々の思いを国というボーダーを越えた現代の私たちが共有できるという感覚に不思議な「縁」を強く感じた時間でもあります。

二日目は地域の国際交流パーティに参加してもらったのですが、我が家は都合がつかず、朝そこに送り届けてさよならとなりました。結局一緒に居て実際話ができたのは、ほんの半日程度でした。しかし、これは私たちの「縁」のはじまりと考えています。細くともこれからずっと続くであろうセリさんとのつながりに心から感謝しつつ、セリさんが教えてくれた「有縁千里来相会」・・・縁があれば、時間や距離を越えてもつながっていくという言葉を大切に、再会を楽しみにしています。

今回が初めてのホームステイ受け入れ体験です。事前に中国からの戴さんという女性の留学生という知らせがあり、対面式当日までどんな方なんだろうとドキドキしていました。恐らく、戴さんも同じだったと思います。

少し緊張して対面式に出席しましたが、戴さんはとても明るくフレンドリーな方で、初めはお互いにぎこちなさもありましたが、すぐに打ち解けることができました。

その後、私たち夫婦と6歳の長男、0歳の長女と戴さんと、近くで行われていたイベント会場へ出かけてみましたが、戴さんは初めて見たアロマセラピーにとっても興味を持ったようでした。それからスーパーで夕食の買い物をして自宅へお招きしました。

戴さんは日本の文化や風習を勉強されていて、お互いの国の共通点や違いなどを話しているうちに大いに盛り上がり、あっという間に時間が過ぎました。

夕食は日本の夏らしく、皆で素麺を食べました。戴さんは初めて食べたそうですが、美味しいと言ってくれて良かったです。風呂上がりに夕涼みの散歩をしながらたくさんお話をしたり、子供と一緒にゲームをしたりして普段以上に楽しい時間を過ごしました。

二日目は、秋葉区の国際交流団体のBBQに参加する予定でしたが、あいにくの雨となり屋内での簡単なパーティーに変更になりました。ヨーロッパや北米、南米、アジアからの留学生や社会人と、秋葉区や阿賀野市の地元の人々が集まっている中で、戴さんも私たち家族以外の人と交流を持ち楽しそうにされていたので良かったです。

こうして、初めてのホームステイ受け入れ体験を無事に終えることができました。私たちにとっては異国の文化に触れられた貴重な時間となり、特に長男にとってはとても刺激になったようです。戴さん、楽しい時間をありがとうございました。またどこかでお会いしましょう。

「ホームステイ日記」

西沢 茂・和子

〇月〇日

「ホームステイ？」

夕食の後、テレビでなく妻の声で急に聞こえました。

聞き返すと一泊二日で留学生のホームステイ受け入れをしてみないかとの提案。どうやら勤務先の先輩宅でよくホームステイ受け入れをされているお話を聞いて、興味をもったようです。小学4年の長女は「どこの国の人？」「中国人かなあ」・・・なにやら不安そうな反応。小学2年の次女は「なんかヤダ」「止めたほうがいいよ」・・・こっちはもっとはっきりと拒否反応。

娘たちの反応に少し驚いた。受け入れ募集の日程は夏休みの初日。これはよいご縁かもしれない。受け入れてみたくなった。見知らぬ国のお客さん、我が家できっちりとお迎えしてみましよう。

〇月〇日

出張先から戻るとリビングに「子どもの英会話」テキストと書きかけのノートが力尽きたように置いてあります。妻に聞くとホームステイ受け入れが正式決定したとのこと。どこの国のお客さんかはまだ不明なのですが、長女はとりあえず英語のお勉強だそうです。次女は相変わらず乗り気じゃない様子。で、小心者の僕はこっそりパソコンに音声翻訳ソフト仕込んでちょっとワクワクドキドキ。妻は交流協会からの連絡をやきもきしながら待っています。

〇月〇日

出張先へ妻からメール。「連絡来た来た！中国人の留学生、女子大生が二人だって！」
おお、女子大生。しかも二人？いよいよ緊張する小心者。

そしたらメールの追伸が。「日本語オッケーよ。コンバンワだって！」
さっそく電話で連絡したようです。さて今週末、どうやってお迎えしようかな。

〇月〇日

対面式へは妻と受け入れ反対派の次女がお迎えに。僕と長女はピアノのお稽古の後、今晚の夕食のお買い物。前日に相談しまして、いつもの週末メニューでいくか！ってことで手巻き寿司。生ものNGに備えてお肉も少々。朝ごはん用に鮭、卵、お豆腐 etc。

家に戻ると、既に妻の車が停まっています。長女、「わっ、もう来てるよ・・・どうしよう・・・。」どうもこうもないので突入！中からはかわいらしい娘さんが二人、流ちょうな日本語で「お邪魔しています。初めまして。」とご挨拶です。おいしいお菓子とジャスミン茶と風水の飾りをお土産に持ってきてくれました。なんか見てるだけでうれくなる素敵な娘さんたち。ディンディン、シズカちゃん、よろしくね！

さて緊張気味にしばし歓談。新潟大学に日本語の勉強に来ているのだそうです。世界地図を見ながら、遠い国からのお客さんとの話に長女も、そして反対派の次女も興味深々。気が付くと中国と日本の早口言葉をおしえあったり、おんぶしたり抱っこされたり大騒ぎです。思慮深く、優しく、礼儀正しいお客様と、まったく躰がなっていないわが娘の国際交流でして、親としては汗顔の至りでした。夕食もなんでも食べてくれ、（生ものはちょっと苦手だったようなので、急きよ豚のしょうが焼きも追加！）とっても楽しい夕餉でした。はしゃぎすぎた娘たちに就寝を勧告すると、「明日は何時に起きる？起こしにいつてあげる！」とモーニングコールの約束をしっかりと「ではおやすみなさい」

〇月〇日

まだ朝6時前です。ヒソヒソ声で娘たちが「おねえちゃんたちもう起きたかな？」「ちょっと様子見てくる」・・・おい、まだ早いよ！ごめんね、ディンディン、シズカちゃん・・・。

朝ごはんは鮭の塩焼き、卵焼き、豆腐のスープ、サラダ。普通の日本の朝ごはんをとておいしく食べてくれました。どこかに出かけよう

かと思ったのですが、娘たちがお姉さんにくっついて遊んでもらっていて、お姉さんたちもとても楽しそうだったので、普通のくつろいだ日曜日を過ごしてもらうことにしました。お昼はみんなで、ホットプレートで「お好み焼き」。楽しんでもらえたかな。

そろそろお別れの時間が近づいてくると、ディンディン、シズカちゃん、子どもたちの様子がおかしくなってきました。さみしいんだね。でも素敵な一期一会だったね。大学の宿舎までみんなで送っていきました。思いがけず母校が懐かしく、僕もさみしいような、ポツとあったかいような、なんかいい気分になりました。娘たちと優しく遊んでくれた二人に心ばかりのお土産に、お料理の本と和菓子の本をプレゼントさせてもらいました。

受け入れを終わって

素敵なお客さんと楽しい時間が過ごせました。娘たちは、テレビで流れる、見知らぬ噂の「中国」でなく、素敵なお客様「ディンディン」と「シズカちゃん」の母国「中国」を感じることができたと思います。ディンディンとシズカちゃんにとっての「日本」の1ページには、ドタバタしながら精一杯お迎えした僕たち家族が描かれているかな？

いろいろなお客さま、いろいろな一期一会があると思います。いつも素敵な出会いばかりじゃないこともあるかも知れません。でもまた別な出会いにワクワクして、ホームステイをお迎えしたくなるような、素敵な出会いでした。

では、また。

